

「ストレッチマン・ゴールド」を活用した生活スキルの育成

横浜市立仏向小学校 教諭 東森 清仁

特別支援学級 生活単元学習 ストレッチマン・ゴールド

【活用回・番組紹介】

第2回「スプーンとフォークの使い分け」

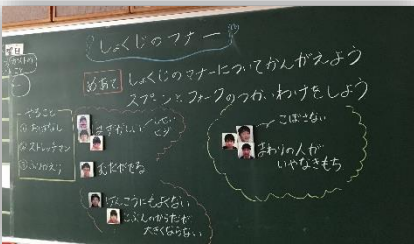
ストレッチマン・ゴールドは、「手洗い」「洗顔」「着替え」などの生活スキルの大切さをストレッチマンと怪人とのやり取りの中で気付かせるとともに、そのために必要な動きを「あそびコーナー」で学ぶことができる構成となっている。

【授業デザイン】

生活単元学習「レストランにいこう」

導入

生活単元学習として、自分たちがレストランで注文し、マナーよく食べる場面を想起し、「どうしてフォークやスプーンを使って上手に食べることが大切なのか」を話し合う。



番組視聴

番組を全体視聴する。ストレッチ体操の場面では、ゆっくりと数えながらストレッチマンと一緒にストレッチを行う。



内容を確認

番組の内容をふりかえり、板書をもとに「食事のマナーの大切さ」について自分たちの考えを関連付けながらまとめていく。同時に、本時の学習課題である「スプーンとフォークのつかいわけ」についてのポイントを押しさえる。

あそびコーナー

実際にピンポン玉や毛糸を用意し、スプーンとフォークの使い分けについて体験する。



学習課題についてのふりかえり

本時の学習内容についての振り返りとまとめを行う。

【授業の概要】

本学級では毎年、年度末に進級・卒業を祝うとともに外食でのメニューの選び方や注文の仕方、マナーの良い食事の仕方を学ぶために実際にレストランへ出向いての校外学習を行っている。

今回の授業では、レストラン学習の事前指導の一環として、マナーよく食事をするための大切さとは何かについて考えるとともに、スプーンとフォークの使い分け及び、正しい使い方について、番組視聴と体験活動を基に学べるように授業デザインを行った。

【今回の実践における番組効果】

2. 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
6. 練習のための正しい規範を与える。
9. 教師の授業における指導過程のアイデアを与える。
10. 日常生活指導において共通の関心や問題意識をよび起こして問題の解決を容易にする。

【番組活用のポイント】

①番組視聴を通して生活の中で視点をもつ

普段何気なく使用しているスプーンとフォークであるが、細かな点に注目すると、使い分けのポイントが正しくつかめていなかったり、食具の持ち方や使い方が正しく身に付いていなかったりすることがある。

番組視聴をする中で、食具を正しく使うことへの意識をもつとともに、児童が自らから意見を出すことで、「なぜ大切なのか」についての考えや視点をもてるようにする。

②NHK for Schoolの資料活用

NHK for Schoolに掲載されている先生向け資料、「あそび解説資料」に事前に目を通すことで、「あそびコーナー」の動きが実際の生活の中でどのような生活スキルの基盤となるのかが指導者にとって明確になる。

また、指導のポイントやどの動きが児童の実態により適しているものなのか、といった授業デザインへの見通しをもつことができる。

③個に応じた支援

あそびコーナーでの活動(動作)については、児童の実態に応じて、お皿に手を添える、食具の持ち方を横で行ってみせる、などの支援を行うことで、誰もが楽しみながら活動に参加できるようにする。



【成果と課題】

楽しみにしているレストラン学習に向けての事前学習として行うことで、児童がより具体的な課題意識をもって授業に取り組むことができた。また、あそびコーナーで練習したことと普段の給食時の食具操作を関連付けることで、効果的に日常生活への指導ができていた点も大きな成果といえる。

今後の課題として、授業の導入部分で気付いた食事のマナーや、視聴の中で学んだ「食具の使い分け」の視点を児童が自分自身で気づき、判断できるように常時活動の中で繰り返し指導していくことが重要であると考えます。